

男女共同参画シリーズ その4

山梨大学男女共同参画推進室の活動紹介

Introduction of Gender Equality Office, University of Yamanashi

1 はじめに

(大) 山梨大学(以下、本学)では、教職員の誰もが働きやすく、学生の誰もが学びやすい環境の整備を進めている。その一端を担う男女共同参画推進室(以下、推進室)では、令和2年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(以下、ダイバー事業)に採択され、これまで行ってきた男女共同参画推進活動に加え、女性研究者の増員、若手研究者、特に女性研究者の研究力向上のための取り組みや女性研究者の上位職への積極登用にに向けた取り組み等を支援する体制の構築に着手した。

筆者は、生物工学部門の技術士として、地元企業の「モノづくり補助金」事業に携わってきたが、今回、女性技術士の働き方に関するエッセイ¹⁾が、本学の男女共同参画担当理事の目に留まり、推進室及びダイバー事業全般に関わらせてもらうこととなった。

本稿では、筆者が関与している主な取り組みについて紹介する。



写真1 男女共同参画推進室交流スペース

2 推進室の取り組み

推進室は、平成24年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け設置された「女性研究者支援室」を前身とし、平成26年度に「男女共同参画推進室」として改編された。

推進室の取り組みとして、①女性研究者に対する支援、②女性研究者奨励、③意識醸成のための各種講演会の企画・開催、④ロールモデル集の作成等を行っている。以下、具体的な活動内容について説明する。

① 女性研究者に対する支援

推進室では、研究サポーター(本学ではキャリアアシスタント。以下、「CA」)支援制度、復帰支援制度、論文支援制度による支援を行っている。

CA支援制度は、研究活動のパワーダウンが懸念されるライフイベント(妊娠・出産、育児、介護等)中の研究者の研究の継続・推進を図るとともに、学生がCAとして研究補助業務に従事することで、若手研究者育成に資することを目的としている。本制度は、女性のみでなく、男性研究者も積極的に活用しており、ワークライフバランスを実現しやすい体制の構築に寄与している。

また、ライフイベントにより研究活動が中断または停滞した女性研究者に対し、復帰後の研究活動、論文作成及びそれに伴う経済的負担に対して支援することを目的とした復帰支援制度や論文支援制度などを運営している。

② 女性研究者奨励事業

山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的とし、平成28年度に創設された。女性教員と女子大学院生を対象に選考を行い、毎年11月に授賞式を行っている。

③ 意識醸成のための各種講演会の企画・開催

ダイバーシティや男女共同参画に関する意識醸成を目的とし、各種講演会を企画・開催している。

今年度(令和3年度)は、6月に内閣府地域働き方改革支援チーム委員である渥美由喜氏を招

き、管理者向け講演会を開催した。「ダイバーシティ・女性活躍を取り入れたマネジメントとは～すべての人が働きがいのある職場づくりを考えよう～」というテーマで、女性活躍のみでなく、色々な特性を有するメンバーが活躍できる組織の作り方について講演いただいた。短時間でメッセージ性の強い講演会を企画することも筆者の役割の一つであり、ダイバーシティ&インクルージョンに関するセミナー情報の収集も業務の一つとなっている。

④ ロールモデル集・活動報告News Letter発行
多くの学生が研究職に興味を持ち、将来の職業選択の幅が少しでも広がることを願って、山梨大学の研究者を紹介するロールモデル集「ナシダイ Researchers」を作成している。また、定期的にNews Letterを発行し、推進室の活動報告と周知を、「簡潔に分かりやすい内容」を目指して行っている。

3 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業

本事業は、研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進する大学等の取り組みを支援する文部科学省科学技術人材育成費補助事業である。本学は、令和2年度に「牽引型」で採択され、県内食品企業と医療系企業の2社を共同実施機関として連携し、地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した取り組みを行っている。

具体的には、上述の事項に加え、①女性研究者を代表者とする共同実施機関や県内企業等との共同研究、②「クロスアポイントメント制度（研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、二つ以上の機関に雇用されつつ、一定のエフォート管理の下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度²⁾）」を用いた大学－企業間の女性研究者の人事交流・人材育成、③女性社長との対談を通じた女性リーダー育成教育を軸とした様々な活動を行っている。

筆者は、ダイバー事業全般に携わっているが、

特に、共同実施機関と本学との間で実施される共同研究が「山梨大学発地域連携型事業」に発展できるように、研究の動向を解析し、融合研究としての将来性を見据え、研究室等色々な情報を収集し、各方面の関係者と話し合いの機会を作り、ダイバーシティ研究環境実現体制の構築を行っている。

さらに、「クロスアポイントメント制度」を活用し、企業的女性研究者が本学で活躍できる場を作るべく、手探り状態ではあるが関連部局との調整を行っている。現在は、どのように発展させるかを課題とし、他大学の動向調査と学内ニーズ調査を進めている。



図1 ダイバー事業のロゴマーク

4 最後に

ダイバー事業、特に若手研究者育成や共同研究を進めるにあたり、「技術士」として活動してきた「将来展望を見据えた、外部資金獲得のための学内外の研究調査の実施」は非常に役に立っていると感じている。また、企業研究と大学研究をつなげる非常にやりがいのある業務につかせてもらったことをとてもうれしく思っている。

本事業を通じ、地方大学ならではの女性研究者育成・活躍の場を作り上げ、継続できる下地作りを行い、だれもが働きやすい組織づくりに、技術士の目線できちんと関わっていききたい。

<引用文献>

- 1) 山村裕美:フリーランスの技術士として働くこと～働き方の多様性の一例～, 生物工学, 第98巻, 第11号, pp.637-639, 2020
- 2) 経済産業省HP「クロスアポイントメント制度について」https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/cross_appointment.html

山村 裕美 (やまむら ひろみ)
技術士（生物工学部門）

(大) 山梨大学
男女共同参画推進室 特任助教
e-mail : yahiromi@yamanashi.ac.jp

